

## 新島の火山活動解説資料（令和8年5月）

気象庁地震火山部  
火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。  
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

### ○ 活動概況

- ・ 噴気など表面現象の状況（図1）  
式根監視カメラ（丹後山の西南西約4km）による観測では、噴気は認められません。
- ・ 地震や微動の発生状況（図2-①②、図3）  
地震活動は低調に経過しました。火山性微動は観測されませんでした。
- ・ 地殻変動の状況（図2-③④、図4）  
地殻変動観測では、火山活動によるとみられる特段の変化は認められません。



図1 新島 丹後山周辺の状況（5月30日、式根監視カメラによる）

この火山活動解説資料は気象庁ホームページでも閲覧することができます。

[https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly\\_v-act\\_doc/monthly\\_vact.php](https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)

次回の火山活動解説資料（令和8年6月分）は令和8年7月8日に発表する予定です。

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/kazan/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、東京大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、東京都及び公益財団法人地震予知総合研究振興会のデータも利用して作成しています。

資料の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『基盤地図情報』『数値地図25000（行政界・海岸線）』『数値地図50mメッシュ（標高）』を使用しています。

【計数基準の変遷】  
 高周波地震：2010年10月1日（観測開始）～ 瀬戸山南から半径8km、深さ20km以内  
 低周波地震：2010年8月2日～2013年9月30日 瀬戸山南上下動振幅0.8 $\mu$ m/s以上  
 2013年10月1日～ 瀬戸山南上下動振幅4.0 $\mu$ m/s以上

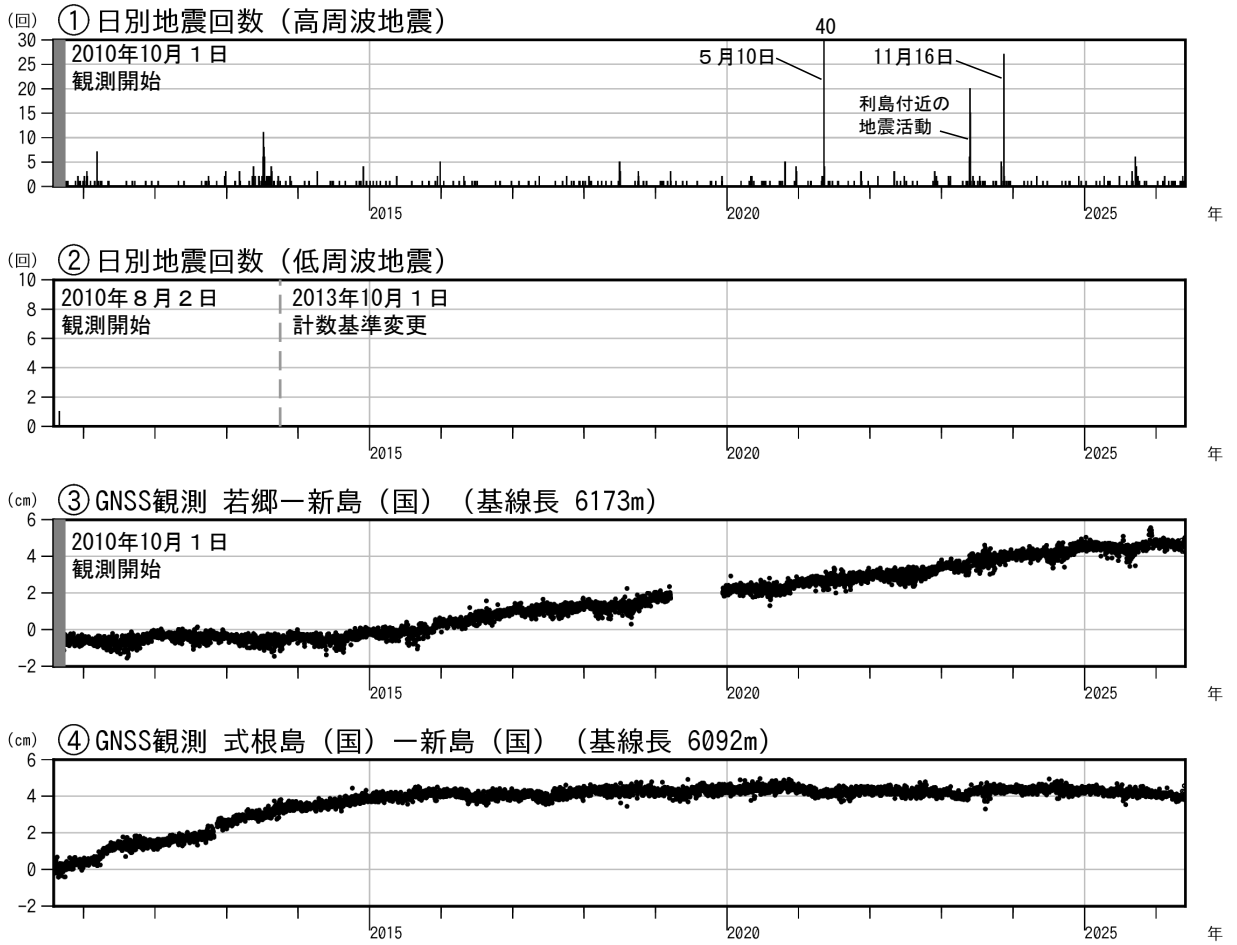


図2 新島 火山活動経過図(2010年8月2日～2026年5月31日)

- ①、③：灰色部分は観測期間外を示します。
- ③、④：図4のGNSS基線③、④に対応しています。また、グラフの空白部分は欠測を示します。
- (国)：国土地理院

- ・地震活動は低調に経過しました。
- ・GNSS連続観測では、火山活動によるとみられる特段の変化は認められません。

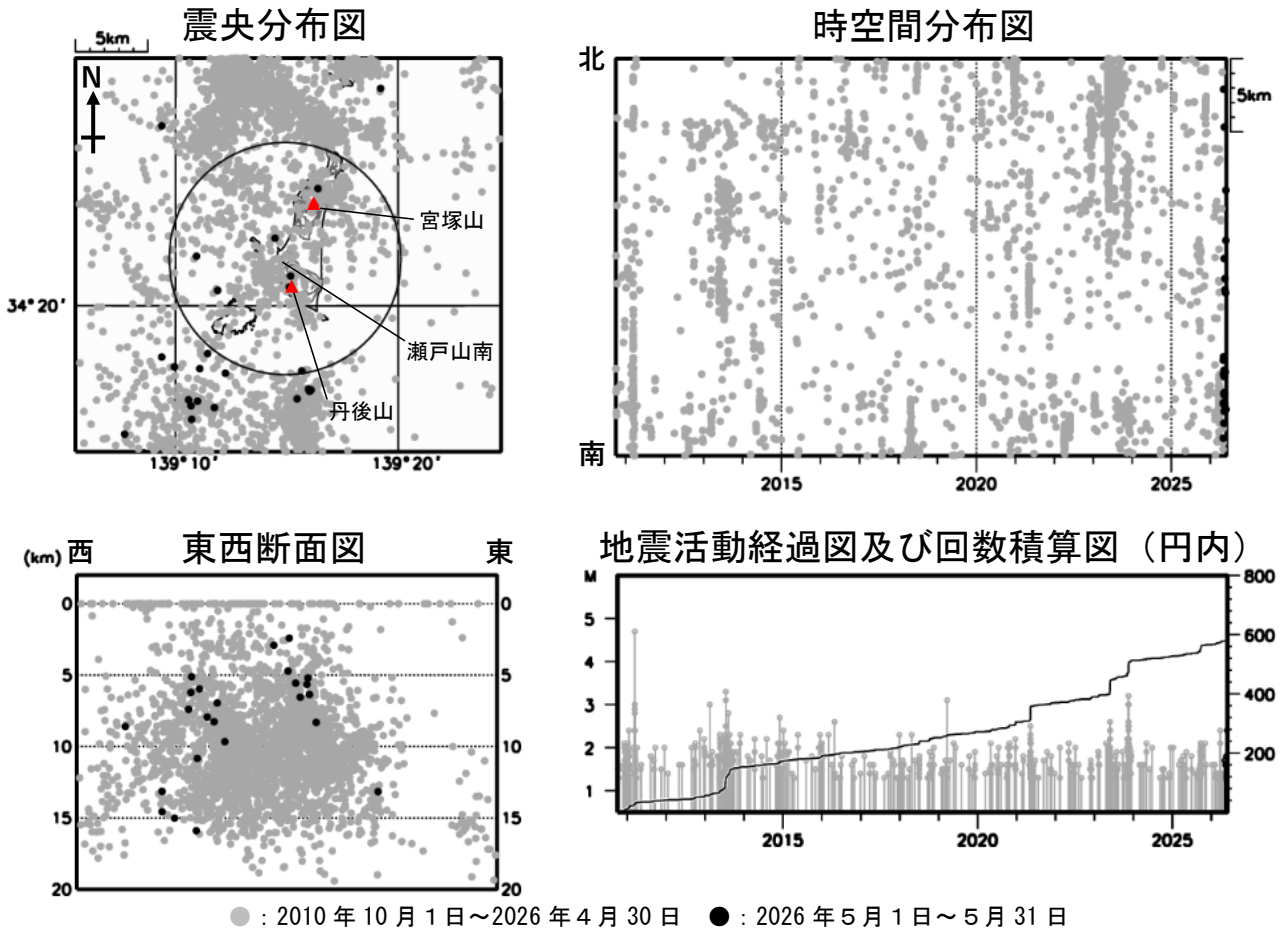


図3 新島 広域地震観測網による山体・周辺の地震活動（2010年10月1日～2026年5月31日）  
 広域地震観測網により震源決定したもので、深さは全て海面以下として決定しています。なお、2020年9月以降については、地震観測点の標高を考慮する等、震源決定の手法を変更しています。  
 M（マグニチュード）は地震の規模を表し、M1.3以上の地震を示しています。  
 図中の震源要素は一部暫定値が含まれており、後日変更することがあります。  
 計数対象（瀬戸山南から半径約8km、深さ約20km以内）以外の地震が含まれるため、図2-①の日別地震回数（高周波地震）とは異なります。  
 震央分布図中の円は火山性地震の回数の計数対象（瀬戸山南から半径8km、深さ20km以内）の範囲を示しています。

- ・地震活動は低調に経過しました。

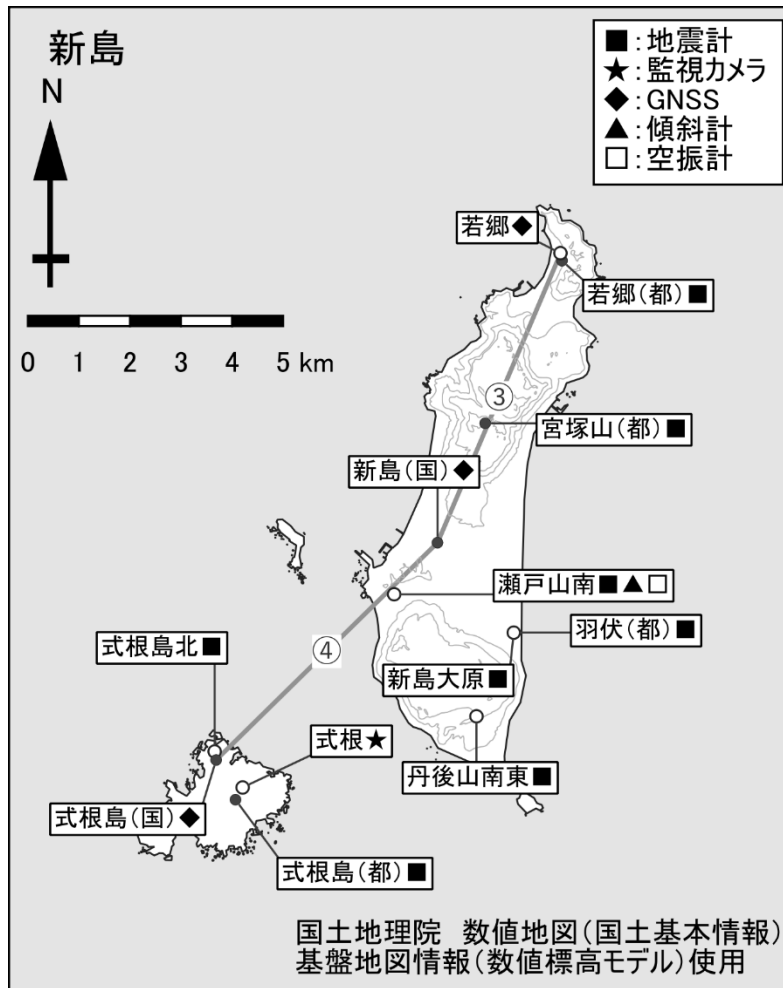


図4 新島 観測点配置図

GNSS 基線③、④は図2の③、④に対応しています。

小さな白丸(○)は気象庁、小さな黒丸(●)は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

(国): 国土地理院 (都): 東京都